



定例会で教えあっています

「地域」を笑顔にするボランティア団体の活動に潜入！

羽ばたけ 笑顔の輪

● 東大阪市
折り紙ボランティアグループ
「おりがみの会折鶴」

誰もが笑顔になる折り紙

ボランティアグループ「おりがみの会折鶴」(以下、折鶴)は、1才半の子どもから100才をこえる高齢者まで幅広い年齢層の方に季節の花やブローチ動物など、さまざまな折り紙の作り方を教える活動をしています。市内の幼稚園・福祉施設等で折り紙教室や講座を開催するほか、町会の子ども会やクリスマス会といったイベントでも地域の方と一緒に作成しています。「折り紙は人を笑顔にする」と話すのは代表の中里見順子さん。配食サービスで勤務していた時、外出できないが患者さんに四季を感じてもらいたいと、折り紙の朝顔をプレゼントし、とても感謝されました。その時に折り紙は人を笑顔にする

と確信し、みんなを笑顔にしたいという思いから「折鶴」を平成11年に発足しました。



文化のつどいで出店した作品

地域を笑顔に
今後もつねに出会いに感謝し、自身の健康の維持と、笑顔の輪を広げていきたいとメンバーのみなさんは意気込みます。

折り紙を通じた交流の中で、さまざまなことでも意識して参加者をほめるようにしています。そして、完成した時のよろこびをみんなで分かちあうことを大切にしています。参加者からは、「分からない所をマンツーマンで教えてもらえてよかった」「1枚の紙からいろいろなものができることに挑戦しがいがあると感じた」といった声が届いています。

メンバーには、保健所の実施する介護予防の健康プログラムへの参加がきっかけで活動をスタートした人もいます。「自身の健康のためにはじめたが、相手のようこびや笑顔に出会えることがうれしい」とやりがいを感じています。

被災地の声

～能登豪雨災害～

令和6年1月1日の「令和6年能登半島地震」から半年以上が経ち、復興に向けてすすんでいた能登半島地域では、同年9月21日からの「能登豪雨災害」により甚大な被害が発生しました。今回は、輪島市での活動を報告するとともに、被災地の声をお届けします。

被災地の現状

令和6年9月21日に発生した能登豪雨災害では、石川県内各地で河川の氾濫や土砂崩れが相次ぎました。また、被災した方が入居中の仮設住宅や、社会福祉施設なども被害を受けました。輪島市災害ボランティアセンター



床上浸水のあった製菓店(輪島市)

支援者への支援

被災された方への支援を考えると、支援者への支援も欠かせません。現地の社協職員や行政職員、社会福祉施設職員は2度にわたる災害により、身体的・精神的な疲労感が見られます。現地の職員は支援者ではありませんが、被災者でもあります。

今回の豪雨災害を受け、近畿ブロック内の社協では、石川県社協からの職員応援派遣要請により、10月18日から、他ブロックと連携しながら、災害VCへ支援に入っています。

また、全国の社会福祉施設でも、石川県内社会福祉施設からの要請により、介護職員の派遣を行います。

3者合同でのボランティアバス

堺市社協・大阪府市町村社協連合会・府社協では、9月26日から27日に輪島市

への合同ボランティアバスを運行しました。

現地では、地震により家財が散乱した家屋の整理や片付け、豪雨により室内に流入した泥の掻き出し作業などを行っていました。豪雨災害発生から5日後の活動でしたが、すでに泥は乾きはじめていたため、作業は難航しました。その日の作業は床上の泥を清掃して終了となりましたが、住民の方からは、「(片付けは)一人ではできなかった。感謝してもきれいな」との声をいただきました。

息の長い支援を...

「世間からの関心が薄れるのが怖い」「積極的に発信をつづけてほしい」と輪島市社協の職員の方は言います。各種メディアで報道は行われていますが、時間とともに新しい話題につづり、報道される回数は減っています。災害VCでは活動の事前説明の際に、個人宅の写真などをSNSにアップしないようプライバシー保護への注意喚起を行っています。それを配慮したうえで、街並みやボランティア活動のようすの発信はお願いしたいということです。

府社協は、市町村社協、会員施設、関係団体とともに、今後も息の長い被災地支援に取り組んでいきます。

あなたのご支援を!! がんばろう!! 能登!!

輪島市には1日に100人以上のボランティアが駆けつけていますが、まだまだ支援が必要な状況です。LINEまたはメール登録をいただくと定期的にボランティア情報が届きます。(1) また、輪島市の被災者支援、災害ボランティア支援、被災者支援活動等を行うために、輪島市社協では支援金を募集しています。(2) みなさまの温かいご支援とご協力をお願いいたします。



① 石川県災害ボランティア情報はこちら



② 輪島市社協支援金サイトはこちら

地域で活躍する

民生委員・児童委員さん

NO.46



水野 清美さん (民生委員歴32年) 松原市 松原北地区

質問数珠つなぎ

Vol.45 安本さんから質問

50代で近隣付き合いがない人をどう支援する?

A 水野さんの回答

民生委員がまずは関係性をつくり、少しずつ地域で見守れるようになります。

地域で活躍する民生委員・児童委員(以下、民生委員)さんにスポットを当て、その方の思いを紹介します。

今回は、40代から30年以上、民生委員として活躍する水野さんにインタビュー。活動で大切にしていること、今後の抱負について聞きました。

● 施設と地域をつなぐ民生委員

社会福祉法人で、医療相談員として働いていました。また、父が民生委員だったこともあり、40代で民生委員になりました。施設として地域と関わっていたこと、家族や近所の方が育児をサポートしてくれる環境もあり、活動を負担に感じることはありませんでした。

● 困っているときは今

大切にしていることは、連絡があったらすぐに動くこと。地域の人とも顔見知りになり、「何かあったら言ってね」といつも伝えています。

高齢者世帯の近隣住民から、「ドアが

開かないので気になる」という連絡が入りました。地域の相談員さんとすぐに訪問。何度も外から声をかけましたが、応答がなく、相談した結果、救急に連絡。階段から落ちて動けないでいた高齢者の命を救うことができました。

● 新しい風をいれたい

市民児協の会計監査と地区の副委員長も担っています。今は、来年12月の一斉改選に向けて、後任者探しに奮闘しています。40代、50代で子育てが落ち着いた人、民生委員として活動してほしい。多様な世代の考え方が活動を活発にすると考えています。また、ICTの活用やマニュアルの作成など、働きながらも活動しやすい環境をつくっていききたいです。

● みんな平等

支援を必要とする地域住民も、一緒に活動する町会や民生委員同士もみんな平等です。同じ目線で支えあうことで、「共に生きる」地域をこれからもつくっていききたいです。